

第3回摂津市協働のまちづくり推進委員会 <議事要旨>

開催日時	令和7年12月25日（木）10時00分～12時00分
開催場所	摂津市役所7階 講堂
案件	1. 開会 2. 協働による地域活動促進のための意見交換 3. 協働のまちづくり推進月間の取組内容について 4. その他
出席者	久委員（委員長）、柳瀬委員（副委員長）、久山委員、寺西委員、高雄委員、吉田委員、武友委員、松田委員、井関委員、末岡委員、北川委員、鈴木委員、中井委員、中田委員
欠席者	松方委員
事務局	生活環境部長 吉田、生活環境部副理事兼自治振興課長 川本、自治振興課自治振興係長 林田、自治振興課市民活動支援係 緒方
オブザーバー	市長公室副理事兼秘書課長 有場、政策推進課長代理 橋本

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
1. 開会	
事務局	<p>本日はお忙しい中、お集まりをいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>ただいまから、摂津市協働のまちづくり推進委員会の第3回会議を開催いたします。</p> <p>本日の会議につきましては、全委員15名中14名の出席で、半数を超えておりますので、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。</p> <p>それでは、早速ではございますが、久委員長、議事の進行をお願いいたします。</p>
2. 協働による地域活動促進のための意見交換	
委員長	<p>それでは、次第に沿って進めさせていただきます。</p> <p>まず、次第2の「協働による地域活動促進のための意見交換」についてです。</p> <p>そこに関係する資料もございますけれど、前回、フリーディスカッションでいろいろご意見を賜った中でご質問等もございましたので、その答えになるような資料も含めてまず、事務局から用意をしていただいておりますので、そのあたりの説明をお願いします。</p>
事務局	（資料1～5の説明）

委員長	<p>議論の中でいろいろ参考になるものもありますし、また、次回は市民活動のお話をさせていただきたいと思いますので、そこでまた、活用できるお話もごございますので、今日、見ていただいているいろいろお感じになったこと、ご質問等ございましたら、意見交換の中でお話をいただければと思います。</p> <p>それでは、今から意見交換ということですが、前回、フリーディスカッション的に様々ご意見を賜りました。今日も委員会のメンバーとしてお集まりいただいている方の中には、いろいろ地域活動を担っていらっしゃる立場の方と地域を限定せずにいわゆるテーマ型で活動されているような地域活動を担っていらっしゃる方とおられますので、柱を切り分けながらお話をさせていただきなということで、今日は、地域活動を柱にお話しができたらと思います。次回は、市民活動を柱に議論させていただければと思っております。</p> <p>それとあと、我々の今期の一つの目標は、推進計画を作るということでございますので、今日の議論を最終的には、推進計画の中身に反映できるような話に最後はなったらいいなと思っているんですけれども、とはいえ、そこだけという議論は、なかなか幅を狭めてしまいますので、最後は、目標は推進計画ですということです。前もって、共有させていただけたらと思います。もう少し、具体的に言いましたら、まずは、前回も言いましたけれども、地域活動といえば、こんな課題があるよとか、あるいは、地域活動がこうなったらいいなというような理想的な形ってというのがあろうかと思っておりますけれども、そういう形、課題とか、皆さんが描いているこうなったらいいなという姿、こういうものがあって、今は、そうっていないということで、じゃあ、どういうことをやればその課題が解決し、こうなったらいいなというものが実現できるのかというような方策を終盤部分、いろいろお話をいただければ、それが推進計画の中身にかなり近づいてくるのかなと思いますので、現状とこうなったらいいなという話、それを組み合わせながら、話ができれば推進計画の方に近づくのかなと言うふうに思っております。</p> <p>私の方から、先ほどの資料提供で、前回、E委員の方から茨木市では校区単位で新しい協議会が立ち上がってますというお話で、資料の3・4を用意をしていただいているわけですが、資料3、北摂地域を調べていただいていますけれども、実は、全国的に200を超える市町村で、このような小学校区単位の地域の協議会ができ上がっています。そういう状況も踏まえながら、総務省も、国としても検討を進めていくという状況でもございます。なぜ全国的にこういう新しい協議会が必要になってくるかというところで、ちょっとお話をさせていただければと思っておりまして、資料の4、13ページに茨木市が示している地域自治組織の形というのがございます。今日は、様々なお立場の方が集まっておりますので、ここの地域自治組織の右側の四角囲みの構成団体などの例というところがございますが、ここ様々な団体の名前が上がっております。もうすでに地域でご活躍の委員会等も上がっておりますが、最後のところにNPO、事業所などっていうのがあられるわけです。今までは、その手前までの、いわゆる地域をベースにして活動をする団体が主に地域で頑張ってくださっていたんですけれども、</p>
-----	---

そこに NP0 も事業所も入りましょうということになっているんです。これは、この協議会のメンバーとして入ってくださいますかというようなことになっています。これができますと、地域の中で様々な団体、主体が連携ができるということになるわけです。で、やっぱり E 委員もここを摂津市でも目指したらどうかというお話だったと思いますけれど、この辺りができますと、今日お集りの方々は、どこかの地域自治組織と連携しながら、いろいろメンバーとしても活躍ができるということになっています。ただし、なかなか NP0、事業所が入って地域協議会が立ち上がっているところは、まだまだ限定的で、それはなぜかと言いますと、どうしてこういう方々が入る必要があるんだっていうことになってしまうからということになるわけです。我々だけで十分できてるじゃないかという話です。一方で、担い手が少ないという話している、一方で、今までのメンバーと違う方には、なかなか門戸を開いてくださらないという矛盾があって、そこをどうするかというところが、全国的にも今、悩みどころです。更に言うならば、なぜこういう組織が必要になっているかという、ここの構成団体に様々なお名前が上がってますけれども、たぶん摂津市でも小学校区単位でこういう母数にある団体を数えると 30 を超えるわけです。30 超える団体があるんだけど、なかなか関わってくださる方の数が限定されている。そして複数の団体に関わってらっしゃる方が多数おられるということで、なかなか別々に活動するのがしんどいという状況になっているわけです。それを一本化して、それぞれの分野の部会みたいな形で構成し直して、そして地域で様々な課題解決を図ろうというような形で、これができ上がっているというように、ご理解いただけるのかなと思います。ちなみに、この図を説明させていただくついでに左側の行政というのがありますが、行政がパートナーとして地域協議会をパートナーにしましょうということになって、今までは、摂津市でもそうですけれども、まずは自治会とかが一番メインのパートナーだったと思うんです。さらに社協さんとか、あるいは市の福祉の担当の方々は、いわゆる地区福祉委員会がパートナーということで、各それぞれの専門分野ごとに地域のパートナーは違って来たということがあるんですけど、そこも一本化しましょうよという話にもなるんです。地域で協議会を作るという一方で、市役所もそれぞれの課ごとに別々のパートナーと連携するんじゃなくて、地域協議会と連携しましょうよっていうように市も変わっていただく必要があるというようなことになってきますので、そこら辺は、13 ページの地域協議会ができ上がると様々な方々の連携、あるいは市との協働のパートナーの関係、この辺りが大きく変わってくるのかなと思っていますので、前回、E 委員からご提案ありましたけれども、こういうものが全国的に必要とされています。しかしながら、実態としてなかなかこの意味とか運営方法がご理解いただいていないということで、茨木市でも先ほどご提供いただいた資料 3 にありますように、まだ半分も地域の数としてはいっていないということになっていますので、この辺りもまだまだハードルがあることも事実かなと思っています。

ちょっと、私の方から付け加えさせていただきましたが、後は、フリーで意見

	<p>交換をさせていただければと思います。</p> <p>各団体と地域との関わりとか、あるいは地域活動を担ってらっしゃる方にとっての今の課題、問題点、改めて出していただいて、どういう形でそれを解決する方策があるのかというところを議論させていただければと思います。</p> <p>どんなことでもいいです。今、地域でこんな形で活動、問題があるよ。あるいは、地域に関わりたいけれども、うまくいってないよとか状況を教えていただだけでも結構です。</p>
A 委員	<p>これ、行政と地域協議会がありますよね。各小学校区地区ごと、イメージ的に理想は、各小学校地域ごとに自立した協議会ができるというイメージですか。</p> <p>だから、その地域の、例えば、ここ三宅柳田地区だったら、その地域の問題は協議会にお願いすれば、何らかのいろんな団体がいるのでコーディネートするような組織、会社みたいな感じですか。</p> <p>自立した、これは何なんですか。どういう感じなんですか。団体。会社。タウンマネジメントみたいな会社になるんですか。</p>
委員長	<p>これ、今、総務省が議論しているということを申し上げましたけれども、やはり、こういうしっかりした組織には、法人格がいりますね。今、地方自治法上も地縁団体という法人格があるんです。</p> <p>この地縁団体の法人格は、いわゆる昔の旧村の財産を管理するというのが一番大きな目的で作られているわけです。こういうような多様な主体の連携を目指してということの法人格ではないので。今、こういう地域の団体の法人格というのがないんです。そこを総務省として、地方自治法上も法人格を作ろうかなというようになっているんですが、今、使えるところでいうと、例えば、大阪市は、NPO 法人を取ってくださいというお願いをしています。だから、NPO 法人を取っている協議会もたくさんあります。あと、今は、社団法人も取りやすくなりましたので、一般社団法人を取っているところも出てきています。</p> <p>違う言い方をすれば、やはり任意団体のままでは、ちょっとなかなか動きづらいよということで、何らかの法人格を取っていきましようということになっています。</p>
A 委員	<p>その地域の運営をしていくというか、自立して運営していくための法人をみんなで作ろうというお話ですよ。メリットは、その地域で住み続けるための様々なサポートを地域の人が仕事としてやっていくという感じですかね。</p>
委員長	<p>そうです。これ、なかなか規模も大きくなりますので、13 ページの図のところに事務局というのがありますね。この事務局をいかにしっかり作れるかということで、本当は、ここは有償で事務局の職員を雇っていけるというのが理想なんですね。だから、そういう意味ではボランティアでやるのではなくて仕事として、</p>

	<p>ちゃんとこの協議会を運営するスタッフが雇えればいいなと思うんですけど、なかなかそこまで、いけてところはまだまだ少ないんですが。</p> <p>ちなみに、先ほどA委員からご指摘があったけれども、これ別の見方をすると、構成団体がいっぱいありますよね。これ、それぞれ補助金もらっているんですよ。数十万円単位の補助金がありまして、これを集めるとだいたい一千万円ぐらいになるんですよ。この一千万円を、今は数十万円ずつ別々に団体に渡しますが、これを協議会に一括して渡そうよというパートナーである限りね、というようなお金の関係性も見直すということも先進的なところではやっておられます。やはり、一千万円も頂くと、それなりにきちんとした会計ができないといけないということになりますので、やはりこれ、事務局がしっかりしていないといけないということにもなりますし、さらに私が関わっているところで一番すごいのは、大阪市鶴見区の榎本小学校区の地域活動協議会ですけども、市のいろいろな事業も有償で取っておりまして、総額でいうと1年間で1億円程度の収入をお持ちです。もう本当に、しっかりしたビジネスのための組織になってらっしゃるんです。そういうところを目指すというのが、究極の目標だろうなと思うんですけど。ちなみに榎本小学校区は、デイサービスセンターも自分で経営されています。というようなすごいところも今、出てきています。</p>
A委員	<p>その榎本小学校は、地域に住み続けるためにすごく充実していいんですけど、様々な立場の人たちを束ねていくには、人手がないからじゃあ、みんなでやりましょう、と一つメリットはあると思うんですね。ただやはり、それぞれの立場でそれぞれの思いで、長年ずっとされてるので、それらを束ねるための上位概念というか、こんな地域にしようというのは、小学校では何のコンセプトというか、何でそれだけの人たちが、じゃあ自分たちの権利とか差し出して、束ねられているのかなというのが気になります。</p>
委員長	<p>いくつかの地域では、ちゃんと地域のまちづくりの計画を作って、それで、こういうまちにしたいっていう、その目標に向かって、ここに関わってらっしゃる方が頑張るといようなことになっているんです。</p> <p>例えば、子育てをする方たちに対しては、今、現状こうだから地域でこういうことを担っていきましょうという話とか、地域福祉も今こういう状況だから、こういうような事業をやっていきましょうというように、きちんとした計画を作って、それに基づいて毎年、いろんな事業を展開するというような形。もう、お分かりだと思いますが、ある意味、それでいくと、しんどいんですね。だから、無償ボランティアでは、できないでしょという話になってくるわけです。やはり動く人の仕事としてやってくださらないと、なかなか無償ボランティアでは、こういうしっかりとした事業というのは展開できませんよねという話になるんです。</p>
B委員	<p>それを組織されるのには、やりましょうと言ってすぐできることじゃないと思</p>

	<p>うんですけども、先ほど成功事例としてお話しいただきましたけど、そこに至るまでに大阪市としては、そういうのを良い形に持っていくまでに、ある程度、やっぱり自治会という名前で、自分たちで自治する意識とかもあるとは思んですけども、そこに対して市は、やってねと言って、できたとは思わないんで、そういうところに対して、具体的に市、行政としてどういう働きかけがあって、そうになっていったかというのがすごい気になっている。今、自分のところの小学校区でやってねと言って、できるような気がしないので、そこに対して、どういうアクションがあったか、というところですね。</p>
<p>委員長</p>	<p>私も大阪市の計画、協議会の立上げ、運営のきっかけづくりをしてきましたが、実はここにおられるC委員は、一時そういう地域活動協議会の設立、運営のお手伝いのお仕事をされていましたので、C委員から現場でどんなことが起こって、どんな支援をしてこられたか、というのをちょっとお聞かせいただいた方がいいのかなと思います。</p>
<p>C委員</p>	<p>今、ご紹介いただきました、私、各小学校区単位での地域組織を立ち上げたりとか運営していくために、本当にご指摘があったように、自分たちでやってね、お金を渡すからこれやってね、と言ってもなかなか難しいと思います。その支援をする中間支援組織を各区ごとに置いて、そこで各区の中に小学校区が10前後ぐらい、多いところではもっとあったり、もう少し少なかったり、20とかもありますけども、そこにそれぞれ出向いて、まあ、中には、そんな組織は作りたくないんだと、従来の地縁型の組織で何がいけないんだというようなことをおっしゃられることもあったんですけども、自治会長さんであるとか様々な組織の長の方といろいろお話をしながら、今までだったら自治会の中で作られていたような、ある種一つ一つの構成団体をテーマ型に変えていくというか、ここに書かれている構成団体もたくさんまとめて書かれていますけど、子どもというテーマで集まれる人たちは、どんな人たちがいるだろうとか、防災という視点で考えた時に、どんな人たちが協力できるだろうとか、いきなりこの大きな組織の中にNP0とか事業所がポンと入ってくるというのは、お互いになかなかコミュニケーションが難しかったりしますけども、子どもというテーマで集まろうという時にはNP0も参画しやすいですね。防災という視点で立った時に事業所の方も参画しやすい、高齢ということで参画しやすいということで、一緒にテーマ型の組織を見直したりとか、あとは、お金の運用の仕方であるとか、事業報告の作り方であるとかを支援してきました。</p> <p>先ほど委員長からもお話があったようにそういうふうにしていくと、徐々に地域の方から何かもうちょっとここを変えたかったんだよなとか、もっとこうなったらいいのにな、という声を聞いたりするので、そこを一緒に作っていく中で、例えば自分たちの資金も欲しい、今まで区の中で、区の広報紙を民間が配布してたんですね。区がお金を民間にお渡しして、これを小学校区単位でというか地域</p>

<p>委員長</p>	<p>の地域活動協議会にお金を分配して地域で受けて地域で配れるんじゃない。そしてその分、今まで民間に払われてたお金を自分たちがもらって、それを自分たちで配り、そこに自分たちの活動のチラシとかと一緒に配って、地域のマンション、コミュニティに入っていない人にも配り、知ってもらい資金をもらって、活動資金にして、今までだったら、自治会に入っている人しか参加できなかった活動も、それ以外の人たちも参画してもらえるような活動に変えていこうかっていうようなことを一緒にですね、元々NP0の支援もしてましたので、どうやったら市の補助金以外のお金を獲得できるかとか、市に対して、どんなふうに提案をしていけば、前例も含めて、他市とか、他区とかのいろいろな事例を我々が情報提供しながら、こんな情報ありますよとか、こんな実践先駆例があるので、この先駆例を持って区であったりとか、どこかで掛け合いましょうとか、そういったことを一緒にお手伝いしていただいていた感じです。</p> <p>大阪市は規模が大きいので、小学校の数も 280 近くあります。だから、そういう地域を市の職員だけで応援するっていうのはなかなか難しいだろうということで、各区ごとにまちづくりセンターというのを作り、順調に運営が回っていきまで、そのセンターの職員が入られて応援をしていくっていう仕掛けをとっています。</p> <p>一方で、茨木市はそういう仕掛け、外にそういうセンターを作るのではなくて、市の職員さんが地域を応援していくっていうことになっています。</p> <p>生々しい話を一つさせていただくと、この摂津市もそうだと思いますけど、まず自治会がその地域活動の担い手のメインでしてこられました。一方で、福祉の部分は校区の福祉委員会がある。ということになるんですが、大阪市も同じように、いわゆる地域の自治会、大阪市は振興町会と言いますが、校区の連合の振興町会があって、一方で、校区福祉委員会で今までは別々の活動やってこられました。町会長さんと、その福祉委員会の委員長さんがおられて、重なっている地域は、もめ事があまり起こらない。トップが1人ですからね。まちづくり協議会があっても、その人がまちづくり協議会の会長になれば、ずっと担えるんですが、トラブルが起こる一つの典型例は町会長さんと校区福祉委員会の委員長さんが違う場合です。まちづくり協議会を作ったら、どっちが頭取るねんというケンカになってしまう。そういうこともやっぱり起こるんです。</p> <p>だから、そのあたりの人間関係の難しさ、組織対組織のトラブルっていうのも、やはり乗り越えていかないといけない。というところで、そういうのをまちづくりセンターの職員さんも応援してくださって、うまく間に入っていただいて議論をしていくということです。</p> <p>泉大津市でも、実は作っているんですけど、旭小学校区で初めて作らせてもらったんですけど、こういう団体の役員さんが集まって約3年議論して、こういうようなものがなぜ必要なのかっていうことをちゃんと理解の上で、3年後にまちづくり協議会が立ち上がったということになります。</p>
------------	--

	<p>大阪市はどちらかというと、トップダウンで作れっという話になったので、ちょっとそのあたりが最初のスタートのトラブルも多かったんですけど、茨木市もそうですけど、まずはご理解いただいた地域から、こういうようにモデル的に動かしていこうというようになっておりまして、同じ市の中で一つでき上がりますとモデルができますので、そこを見ながら別の地域も始めていけるっていうような感じにしているところが多いです。</p>
D 委員	<p>地域自治組織とか地域協議会とかのお話を受けて、今後の社会の移り変わりとかで、こういう地域ごとの組織が必要だということは理解をしつつあるところですよ。</p> <p>そこで、今回のこの推進委員会が推進のための計画を作ることが目的だということを冒頭におっしゃられたと思うんですけども、このお話をされたということは、この委員会の中でこれを作っていくための計画を作っていくという認識なんでしょうか。</p>
委員長	<p>それは、いろいろあると思うんですけども、私の個人的な思いは、ここは計画作りなので、こういうその地域ごとの新しい協議会のあり方を検討する必要がありますっていうところが計画になって、それを受けて、市役所が別途、またこういう地域協議会のそのあり方を検討する委員会が立ち上がる。そういう順番で切り分けた方がすっきりするのかなというふうに思っています。というのは、先ほど言いましたように、この様々な団体の担い手が集まらないと、こういうことが必要だよっていうことの理解が進んでませんので。だから、ここにも書いているメンバーさんでまだ入ってくださってない方もおられますので、そういう方が集まって議論を繰り返していくという別途の話なので、その手前のところまでこの推進計画で書いていくっていうのがいいのかなと思います。</p>
D 委員	<p>ということは、その地域協議会とかを作っていく方向性で、ここの場でどういった協議会が今の摂津市にとって必要であるのかということを議論していくというイメージでいいんでしょうか。</p>
委員長	<p>そこを議論していただくとありがたいんですけど、すごく乱暴な言い方をすると、これ今、私と市役所の方から説明させていただきましたので、こういうものが必要だよ、いいよねっていう話になるんだったら、これを市役所がまた別の委員会を作って、検討してくださいねっていうお願いでOKなんです。中身までは突っ込まなくても、その委員会にまた委ねていただいて、そこでご議論していただくという手もあるのかなというのもそうです。</p> <p>実は、そのあたりを振っていただいたので、吹田市はできてないっていう話になってますよね。実は 10 年ほど前に私も入って、この協議会を作る作らないの委員会をやったんです。3 年ぐらいやったんですけど、結局答えは難しいなとい</p>



副委員長	<p>うことになっちゃったんです。いや、必要性をなかなかご理解いただけなかったってところですね。</p> <p>吹田市の話を少し出していただいて、今、委員長おっしゃったように、やっぱり自治会の加入率がどんどん下がっていくって、もちろん人口が減っていくってような中で、今の形で地域コミュニティの維持ができるのかっていうことは、多分どこであっても、共通の課題であるってことはあると思います。その中で、市民いわゆる地域の住民というか市民とか NPO とかも入りながら、その検討会っていうことは重ねてやってきたんですが、やはりずっとそれまで担われてきた自治会の皆さんが、それは否定してるわけではなくて、一緒にここから先を考えましょうっていうことだったんですが、やっぱりなかなかそこまでご理解いただけなくて、結局、頓挫しちゃったってところがあります。</p> <p>今、私は吹田の方に中間支援と関わっている中で、やっぱりまだこの議論が出てきているのは出てきているんですね。その中で、なんか本当になかなか乱暴なやり方でゴロっと変えてしまったので、そういうことはやっぱりなかなかできる話ではないかなというところがあって、今度、実は連合町会長さんたちに集まっていたきながら、今の地域の実情とか課題とか、その辺のところを我々が調査した分を提示しながら、今の形態で工夫して運営されている事例なんかも紹介しながら、それでいろいろ話し合いの場を作っていこうというのをやることになっています。</p> <p>そこには市長も入られて、いろいろ意見交換の場として、だからこれが正しいとかこの形が良いということではなく、ただ今のままでは、なかなか難しい実情をやっぱり一人一人そこに暮らす人たちが理解をしながら、一番良い方法を考えていけたらいいなという方向で、今動き出しているっていうのはあります。</p>
委員長	<p>これもエピソード的な話になりますけども、吹田市で私が委員長として委員会を回したんですけれども、1 回目の委員会が始まって、市役所が説明して、すぐにある自治会長さんのお叱りの言葉がありました。何かというと、なんでこんなもん必要やねんって話ですよ。我々が今まで地域を動かしてきたんやから、新しい組織を作るんじゃなくて、自治会を応援してくれたらいいじゃないかっていう話をね。なんかわしらに問題あるんかっていう発言があったんですよ。それで、私の方から会長さん、こういうことが起こっていませんかっていう話になって、そやなって話になって、ようやく議論には進めさせてもらったんですけど、やはり自分たちが今まで回してきたという自負がありますから、それを否定されちゃうっていうイメージを持たれてしまう危険性もあるんですね。だから、そういうことをうまくまずはスタートを切らないといけないなと、私の実感として思っていることです。</p> <p>豊中でできていますよね。吹田ででき上がっていませんよね。私、千里ニュータウンでお仕事させていただくと、ある違いが分かってきたんです。千里ニュータウ</p>

E 委員	<p>ンの3分の2は吹田市、3分の1は豊中市になってますね。同じように新しくスタートしたまちで、数字の上に立って地域コミュニティがどうなっているかっていう話でいうと、全く姿が違うんですね。</p> <p>吹田市は、自治会が強いんです。豊中市側は、自治会はそんなに強くないんですよ。自治会が強くない分、協議会が作りやすかったんじゃないかなと私は推測しているんですけどね。だから元々自治会が全部束ねてきたっていう地域じゃないので、そういう意味で様々な団体さんが活躍した地域の土壌があるので、こういう協議会っていうのは作りやすかったんじゃないかと思うんですが、吹田市はかなり自治会が今まで束ねてこられたっていう伝統があるので、新しい組織に対するあの距離感っていうのが、ちょっと違うのかなというふうには推測しているところなんです。</p> <p>茨木市もそんなに自治会が自治会がっていう地域ではないので、こういうようなものがするっとできたのかなというふうに思っています。</p> <p>今、自治連合会長さんがE委員なので、こういう提案をさせていただいてますけど、自治会長さんの中でもいろんな方がおられて、いろんな思いがありますので、ここでこんなのが必要やっていう話があったとしても、たぶん連合会の方に持って帰っていただくと、何を言うもんねみたいな話も出てくることはあるだろうなと思います。そこを乗り越えていく必要はあります。</p> <p>次の話をすると、これ今言っているのは理想形を言っているのであって、実はいろんな形があるんです。私、茨木市民ですけど、私、春日小学校区ですから、春日小学校区は元々旧村が中心のコミュニティなので、やはり自治会はかなりいろんな活動をしてるんですね。一方で、まちづくり協議会もあります。まちづくり協議会は自治会が今まで担ってこなかった新しい活動を担うとか、そういうように補完関係という形での自治会とまちづくり協議会のすみ分けっていうのをやっている地域もあるわけです。様々な形があって一本にまとまろうよっていうのは、ある意味理想系ですけど、必ずしも無理やり一本化する必要もなく、今までの自治会活動を重視しながら、一方で、まちづくり協議会は、今までにないような新しい活動とかを担っていくし、そこには自治会の会員さんでない方も自由に自分がこういう活動を一緒にやりたいっていうところで手を挙げられるような仕組みになっていますので、そういったようないわゆるソフトな始め方っていうのもありますよということも、ついでにお話をしておきたいと思います。</p> <p>そうでないと、この理想系ばかり考えちゃうと、なかなか難しいところがいっぱい出てきますので、そういうソフトランディングっていう方法もあるだろうということで、それもちょっと情報提供させていただきました。</p> <p>自治会を中心にする活動という形でお話いただいたと思うんですけど、摂津市という全体で議論する場合に、38.6%の自治会加入率です。これが多いのか少ないのかというのが、いつもされるんですけど、地域によって、どう差があるのか。摂津市は安威川を中心に以北と以南という差が特にいろんなところで話が出ま</p>
------	---

すし、かなり開発が進み、またマンションが建ち、人口流入が多い小学校も教室が少なく、建て増すという以北と、小学校を統合しても、統合した小学校がいずれまた統廃合の対象となるという以南の地域と、これを自治会の加入率で比較しますと、特に活発になっている摂津小学校区は、58.4%の加入率があるんですね。一方で、鳥飼西は18.8%の加入率なんですね。ところが世帯数は四、五千ございまして、人はおられるんですが、自治会には入らない。

要するに、茨木市でも33校区で18校区ができていて他がないというのは、いるいないではなくて、必要か必要でないか、その地域の人が望んでいる、望んでいないではなくて、必要性がなくても何とかできているところはなかなかできにくくて、もうほんとに住んでいる方たちが何とかせんとだめよねと思う気持ちがベースにないと、実は新しい考え方が吸収されないのではないかと私は思っているんです。

そこに加えて一番大事なものは、その地域で担える人材がいるのかどうか、いくら市の方で枠組みを作って、皆さんやりましょうと言っても、その校区でそれを理解して、何をすべきかということを皆さんで議論できて、できるところから始めようというところではできるんでしょうけど、考え方そのものが理解できない、もしくは面倒くさいから誰かするやろと思っている人ばかりだったらできないですよ。非常に根本的な問題として、人材というところの、これは行政もそうですし、我々もみんなそう。何かやろうとしたときに、それを理解して引っ張っていかうという人がどれだけいるのかということが前提であって、大事であって、ところが私たちは今まで自治会なら自治会だけの組織の中で人を見ていたので、外の団体でどんな方がいらっしゃるのかを知らないんですよ。だから、人材はいるんだけど知らない。その人たちも自分の枠の中から出ようと思っても、そのつてがないということで、人材はいるけど有効利用できていないというのが、摂津市の現状かなと私はいつも思っているんです。だから、他市がやってらっしゃることの枠組みを参考にして、その考え方をいかに共有できる人たちをいかに短時間で目星を付けて集合させるかという考え方をベースにおかないといかん。

最近、地域でどんな行事をされるときに、誰が旗振りをしているんだろうということを知りたくて、私一市民でするのでなかなか自治会の範囲はわかるんですけど、それ以外のところはわからないので、教育委員会や保健福祉課やその他いろいろなところに、自治振興課もそうですけど、どんなところで誰がどんな行事をしていて、その中心となってやってらっしゃる方の組織や人の一覧表を作りたいなと思って聞いているんですけど、どこもこれをどうぞという資料がないんですよ。だから、自分が知っている範囲では、その人たちとしゃべれるんですけど、改めて深く校区で、各校区ごとにどんな方が頑張ってるのかを知ろうと思ったら結構大変なんですよ。だからそこから始めていって、とにかく、4や5しゃべったら10理解してもらえる人がどれだけいるのかなという、それをいろいろしゃべってもなかなか理解してもらえなかったら、こちらもへこたれますよ

委員長	<p>ね。まずはその各地域でいろいろ頑張ってもらってる方をどれだけ把握していけるのかなというところのアプローチが、いろんな話とは別に一番大事なのかなと。</p> <p>参考までにこの前も言いましたけど、昨年鳥飼ワン！ぱーく万博という河川の活性化、鳥飼まちづくりグランドデザインのワークショップに集まった人たちが万博の半年前イベントで何かやろうかということで、ワークショップで集まった人たちが何かやろうかと言ってやったら、まあいろんな情報はお持ちだわ、個人レベルで参加されているんですけど、結局1,000人単位のイベントができたんですね。あの人たちのパワーというのは私圧倒されて、摂津市にもこんな人たちがいるんだということを改めて実感したことがあります。そういうふうに、私たちが知らないだけであって、そういう機会ではいろんな方がいらっしゃるんだということがわかっただけでも、まだまだ隠れていらっしゃる、私たちから見て隠れている人たちをどうあぶり出して、こういう活動に参画してもらえるのか、そのところの発想、基本的なところをまずやっていかないと、上辺だけでこういう議論してもしょうがないのかなと、やっぱり支えてくれる人たちが本当にいるんだろうかと確認しながら進めていくべきだと思っています。</p> <p>ありがとうございます。いくつかの観点をいただいたと思うんですけど、先ほどE委員のお話の中で、必要とする人材がどこにいるのか分からないというお話がありましたけれども、そもそも市民活動を担ってもらってる方と地域活動を担ってもらってる方の意見交換の場がなかなかうまくできていない。摂津市もトーク会やってますけれども、どちらかというと市民団体側の人たちが集まっているので、そこに地域団体の方がいつも顔を出していただくと、交じり合える機会ができるのかなと思いますので、そんな機会をもっとうまく使っていくというのも一つかなと思いました。</p> <p>それから、地域の中の人材というのがなかなか見えないということなんですけど、ここは地域団体が頑張っていていただく必要があるだろうと思うんですけど、一つエピソード的な話になってしまいますけど、うまくやってらっしゃるところに、豊中の原田小学校区の校区福祉委員会、これは全国的にも紹介されるぐらいすごいことをやってらっしゃるんですけど、その地域ネットワーク委員会の委員長がなかなかユニークな方で、こういうときは男性陣の情報ネットワークよりも女性陣の情報ネットワークの方が強いんですね。もうずっと地域に根付いて動いてらっしゃるのが女性には多いので、この原田小学校区の地域ネットワーク委員会の委員長が動かれて、実は福祉委員で名前がリスト化されているのが200人近い福祉委員がおられるんです。なぜそういう数になるかというと、だいたい女性陣は、御主人がいつ退職するかというタイミングが分かっているんですね。退職後すぐにその方にアプローチして、よかったら福祉委員になって校区福祉委員活動を担っていただけませんかとお話をされます。1回目は断られるそうです。せっかく退職したから、しばらく自分の時間としていろいろ楽しいことやりたいか</p>
-----	--

E 委員	<p>ら、地域活動とは一線を引かしてくれというお話があります。そこであきらめずに数か月後に 2 回目の連絡をするんですね。今度は違うお断わりの言葉が返ってくるそうです。福祉活動を担うと言っても、私は何もできないですよというのが返ってくるんですね。そこで、ネットワークの委員長がおっしゃったのが、「でも車の運転できますよね。配食サービスするときの車の運転手って、すごく重要なので。」というお返しをして、断れないようにもっていくんですけど、ちょっと考えさせてくれという話になって、3 回目電話をかけて、やっとオッケーみたいなこと。どれぐらい活動せなあかんねんという話になってくるんですけど、200 人近い福祉委員がいますので、年に数回出ていただいたらいいですわという話になるんですね、年に数回か、それぐらいなら引き受けるという話になって、担い手が出てくるということになっているそうです。</p> <p>様々な方のネットワークを駆使していくと、たぶん見えてくる人材もあるだろうなと思うので、そのあたりをうまく重ねていっていただくということができれば、たぶんいろんな人材が入ってくるし、先ほどのお話でもう一つの例として、ちょっとしたお手伝いでいいんだというようなことができるならば、担ってくださる方が出てくるし、それから自分の得意分野というようなところで活躍できるようなことにしていただくと、人材も見つかってきやすくなるのかなと思いますし、いろいろご参考にしていただければと思います。</p> <p>一つ紹介したいことがあるんですけどよろしいですか。鳥飼北小校区で来年 1 月 25 日に防犯と防災のフェスタをしようということで、昨日やっとパンフレットができ上がってきたんですけど、鳥飼北小学校区域にお住まいの皆様が対象ですと大きくうたったんです。去年もそうなんですけど、ただ去年失敗したのは、鳥飼北校区連合自治会主催と書いたんです。そうすると、いくらうたい文句しても連合自治会主催とすると、私自治会に入っていないから関係ないわと思ってしまうので、それを反省して、まずお住まいの皆さんが対象ですよということをうたって、かつ、主催は鳥北フェスタ実行委員会になるようにして、自治会の名前を外したんですね。これ二つ意味合いがあって、一つは、でも実際にやるのは連合自治会が主体で、PTA の役員の方も協賛してもらって、それから地域の事業所にも声をかけ、防災サポーターにも声をかけ、去年からやってるんですけど、主催する側も自治会という組織にとらわれず、防災に関しては何かあったとき、自治会の会員かどうかは関係ありませんので、普段からそういう防災に関してはみんな考えてみましょうねという時代を作るためにも、また何かあったときに声をかけやすくするためにも、校区の全員が地域コミュニティの対象ですよと、こういった形でなんとなく自覚していただいたというのが一つ。</p> <p>それから、今の自治会、連合の役員が会員ではない方たちも含めて活動することを容認するということなんですね。組織でこだわってたらどんどん小さくなって、何もできなくなっちゃうんで、自治会が解散してなくなったところの人たちであっても、校区の中の人たちは全員みんなでやりましょうよということをこん</p>
------	---

委員長	<p>な形で少しでも理解してくれる方たちが増えていったらなということも含めて、そんな議論をして今回はそういうパンフレットを作ったんです。</p> <p>こうすることで、地域でやるべきは、楽しむよりもむしろ防災でというときに本当に連携してくるので、市役所のマニュアル見てても、やはり地域の自治会組織が自主的にその避難所を運営するという文言が、改定されたかどうか確認してませんが、以前のマニュアルではそうなくて、自治会やその他地域の団体が自主的に運営するとなっているんですけど、鳥飼西のように自治会加入率18.8%となったら、避難されている場合、自治会員でない方のほうが多い。そんな状態の中でそれぞれ自治会という地域の組織が、今の既存の組織の人たちが運営を担うのかというのは限界があるんです。だから、少なくとも地域の人たちは、今までの組織ではまかないきれないところを、自分たちが地域の一員であるということを経験してもらおう。これが私は大事なかなと思って、鳥飼北小学校区ではそういった取組を去年からしているんですけど、こういうことのボトムアップも協議会では影響してくるのかなと思ってそういう取組をしているところです。</p> <p>ありがとうございます。そのあたりでいくと、地域協議会が立ち上がっているときに、地域協議会のメンバーって誰ですか、住んでいる人全員ということになるんです。だから、自治会の加入は関係なくなります。だから、誰でも地域協議会の活動に関わることができるっていうスタンスがあるんです。もう一つ、だんだん私も見えてきたんですけど、誰が対象で会員になるかという話になると、自治会はどちらかというと世帯単位なんです。世帯参加になるんです。地域協議会は個人参加になるんです。そこの違いって大きいんですよね。世帯から誰かが出てくるパターンと、やりたい人が関わってくださる個人参加のパターンは、かなり印象が違ってくるので、たぶんE委員がおっしゃった話というのは、地域協議会のスタイルとしての個人参加で住んでいる人はみんなメンバーですよっていう形になればいいなというお話でもあったのかなと思います。</p> <p>そのついでにお話をすると、宝塚市の一番北側の西谷地域、ほぼ旧村ですけど西谷地域のまちづくり協議会の副会長がおっしゃったのが面白くて、旧村ですから今でも区長がおられて区長会があるんですね。区長会とまちづくり協議会の違いというのを、副会長がうまく説明してくれたんですけど、区長会というのは村の区長が集まっている会議なので、最高意思決定をしないといけないので、しっかりと議論して地域の物事を決めていくための組織ですと。まちづくり協議会は、そういう地域の意思決定機関ではなくて、いろんな人たちが入って活動を行うための組織ですと。西谷地域では、そういう形で意思決定機関としての区長会と活動を行う団体としてのまちづくり協議会をうまく役割分担しながら動かしていますとおっしゃっていました。そういう切り分けなんかも一つスタイルとしてあるのかなと思いますけどね。</p> <p>でも、そもそも先ほどE委員がおっしゃっていただいたように、もう自治会の加入率が下がってきているということで言えば、今は、例えば3割ぐらいの方々</p>
-----	--

F 委員	<p>が入っている自治会で物事を決定したとしても、それは地域の決定ではないという非常に厳しい見方もできるわけです。そうすると、地域の声を誰がどのようにまとめていくのかというのは、今までのような8割、9割が自治会に入っているような時代とは違うやり方を、やはり地域の声の集約の仕方を考えていかなければならないという時期にきていると思うのですが、その部分では市役所も変わっていただかないといけないということで、自治会にお願いしたら地域にお願いしていると勘違いしてますけども、3割前後の加入率となったときに、地域の代表としての見方を従来どおりにしてよいのか、市役所の方も知っていただく必要があるのかなと思います。</p> <p>ちょっと話題変わるんですけど。わたくし国際交流協会から出てまして、国際交流協会としては外国人がいると思うんですが、前回の会議は欠席させてもらったんですが、外国人についての話が全然出てなかったんですよ、レポート見ても。摂津市ではだいたい2.8%いってると思うんです。今後、また増えると予想されていますよね。例えば豊田市なんかはもう5%いってるという情報があるんですけど、主は彼らに対してどういうことをやるかっていうのをやってるんですけど、それはともかくとして、いまE委員が言われたとおり、自治会ってものすごく大事だと思うんですね。彼らはそういうの全然関係ない、おられる人もいるらしいんですけど、ただ日本語も十分しゃべれない。彼らは何で情報をやっているかと言ったらネットワークです。ネットワークを使って日頃の情報をキャッチしている。だから、たぶん同じ人種の人が、例えばベトナム人だったらベトナム人同士のネットワークが非常に強くて、それを通して、彼らは情報を得てる。だけど、それもグループになってくるんですね、古い人と新しい人と。ものすごく情報が分断している状況やと思うんです。</p> <p>先ほど鳥飼西地域って言われたんですけど、最近ものすごくあそこに住む外国人が多いんですね。それが良いかわからないんですけど、新しい人が多いなって私はそういう感覚を持つんです。だから、そういう弱者というかそういう人をどういうふうに扱っていくか。ただ、高齢者いろいろそういうことが言われてるんですけど、外国人という話です。どういうふうに関後考えていくか疑問があるんですね。</p> <p>我々もやっぱり国際交流、来年に向けてアクティブに何かやっていかなあかなと。この前、ここでワールドカフェが開かれたんですけど、そこで居場所づくりというのが話題になったんですね。それぞれの人の居場所が、外国人に対しての居場所をどういうふうに作っていくかというのが、国際交流の課題だと思ってるんです。そういう点について、この協議会でどういうふうにそういうのを取り扱われるのかっていうことを、どう取り扱っていったらいいかっていうことを今日の中に入れていただければと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。どんどん外国人の方が増えていっている中で、地域コ</p>

E 委員	<p>コミュニティとの関わりとか、その方々へのサポートをどうするのかというところも非常に重要な時期に差し掛かっていますってということだと思いますけれども、そのあたりに関して何かございますか。</p> <p>今の自治会の組織、今現在の摂津市のあり方から言うと、なかなか外国の方が、例えば自治会に入ろうとか地域に溶け込もうというのは難しいんですよ、逆に。だからこそ、先ほど私が申し上げたとおりで、鳥飼北小学校区地域に住んでいる方全員が対象ですよという考え方、その中には当然ベトナムの方やインドネシアの方もいらっしゃいます。含むんですよ。八防自治会も今 92 人の会員の中で、3 名のベトナムの方がいらっしゃる。これはなぜ入っているかと言ったら、地域で住まれて、こどもが産まれて小学校に通っているから、こども会に入る。こども会に入るから自治会にも入るという連鎖があるんですけど、そのこども会がなくなっていき、自治会もなくなっていけば、F 委員がおっしゃるように、地域に馴染もうと思っても、受け皿としての自治会がなくなってしまっていてどうするねんというのが鳥飼西の問題なわけです。</p> <p>そういう自治会等という既存の枠に押し込むのではなくて、むしろ今の既存の枠は考え方として必要なところ、無用とは言いません。自治会は残すべきだと思います。なくなっていくところ、もしくはなくなったところも含めてコミュニティをどう考えるかというところが 1 点。そのコミュニティをつくることによって、例えば 13 ページに説明があったような構成団体の中には、国際交流という名前がいいのかどうか分かりませんが、例えば別の外国人会というのがあれば、そこからおいでよというアプローチができるんですね。そのためにも、このまちづくり協議会というのは必要なのではないかと私は思うんですね。</p>
F 委員	<p>それを活性化していかないと、形だけあっても機能しない。要は今、はっきりいって国際交流協会も機能しているかといったら機能していない。だから、それをどういうふうにやっていくかというのが大きな課題だと思っているんです。外国人というのは、一部の人はしゃべれるんですよ。だけど、他の人はグループで付き合ってるから、日本語をしゃべる必要ないんですよ。わたし日本語教室をやっているんですけど、その時は日本語でしゃべる。だけど、1 週間のうちに何回しゃべるかといったら、会社でもしゃべらない、買い物に行ってもしゃべらない、お金だけ渡して。皆さんに言っているのは、外国人と会ったらしゃべってください。彼らからしゃべることができないから。</p> <p>私の子どもは、外国人と結婚してポーランドに住んでいるんです。だけど、その時に初めは、日本人が何人かいるからそのグループに入った。そしたら日本語しかしゃべらない。だけど、外国人と結婚して全然それは仕方ないんですけど、将来ポーランドに住むからと言って、やっぱり現地の友達をつくって、それで日本人との交流は絶って、それでやって 20 年間住んでいるんですけどね。</p> <p>要は、外国人がそういう状況になるように持っていかないと、そしたら困った</p>



委員長	<p>ときに、犯罪を犯してなんかする。そういうときに、一部の人を見て全部が怖いというんです。そういう意見もたくさんある。そんな中で、みんなの中にどのように溶け込んでもらえるかっていうのをいかに考えていくのが大事なと思います。</p> <p>ありがとうございます。今のお話は違う角度で見ると、今までそういう方々のサポートというのは、国際交流協会がかなり手厚くやっていただいたところだということで、地域の問題としてもしっかりと考えていただいて、地域コミュニティの中でどのようにサポートをする仕組みづくりなんかもできるかどうかというのも考えていく必要があるかなと思います。</p> <p>うちの娘も今ニュージーランドで暮らして、もう8年になるんですけど、永住権も取って向こうでずっと暮らしてるんですけど、子ども2人いて、うちの娘が今心配しているのが、ニュージーランドに住んで8年ですけども、両親とも日本人なので、家の中で日本語なんですね。そうすると、家の中で英語でしゃべっているご家庭の子どもと、やはり両親が日本人となると、英語の差が出てくるかもしれないという心配があるんですけど、ここから先が重要で、ニュージーランドはそういう家庭が地域の中にいっぱいあるので、どこの小学校に入ってもずっと子どもたちにサポートできる体制が整えられているわけですよ。まだ日本はそれに比べると、特別にサポートしないといけない体制になっちゃうんですけど、ニュージーランドは当たり前のように英語ネイティブじゃない家庭の子どもたちがたくさんいるので、どの公立の小学校にはいってもずっとサポートできる体制になっていると。そういうことが日本でもそろそろ考えておかないと、特別な問題と違いますよっていう状況になってきているじゃないかなと思っています。ちなみに、ニュージーランドはオーストラリアと違うのは、オーストラリアは、イギリス系の人たちが植民地化してしまいましたが、ニュージーランドはマオリの人たちがかなりの割合でいたので、歴史的に見てもマオリの人たちと契約を結んで住んでますから、今でもマオリ語と英語が公用語なっているということで、もともと歴史上、多民族、多文化国家なんですよ。だから、そういうことができるのかもしれないというように思いますけども、まだまだそういう意味で言うと、日本社会というのは単一文化がベースになっているので、なかなかそういう意味では、日本の方以外の方はなかなか住みづらいコミュニティになってしまうのかなと思うんで、そこはこれからどうするか、摂津市内でも地域コミュニティとしてどうするか、とても重要な問題かなと思っています。</p>
B委員	<p>今のお話に関連してなんですけれども、外国人っていうところをどうこの協議会の中に直接入ってもらうかそういう観点を持っていくかっていうところではあると思うんですけども、何よりやっぱりこういう組織の中に、などの例で書いてあるんですけど、ここにある例がやっぱり組織しやすい簡単に声を掛けたり集まりやすい人達の、いつものメンバーの取り込みやすい人達みたいな会議にな</p>

<p>委員長</p>	<p>ってしまうと、そこから抜け落ちてしまう人がいるっていうのが、今の外国人の話を聞いていてすごく思ったっていうのがあって、単位にしても小学校区ってなっているんですけど、例えば、障がいのあるお子さんなんかやったら小学校、自分のところと関係ないところに行っていたから、自分の小学校区の保護者とは関わりないんですみたいな方がおられたりとか、あとは防災の話で言うと、ディンクスって言うかな、要は共働きで子どもがいない、仕事をしている方みたいなそういう防災の組織からポロッと抜け落ちてしまって、実際に起こったときに自分がどこに行ってもいいかわからへんみたいなのが実際やっぱり災害が起きたときに発生するっていう話があったりとかして、やっぱりそういうこれ条例にどういう書き方をするかみたいな話にもなるかもしれないけど、やっぱりそういう小学校区みたいなところで、いつもある団体みたいなのをベースに考えると、抜け落ちる人たちがいるっていう観点を、どこかにそういう人たちをちゃんと取り込んでいくみたいなのを入れておかないと、やっぱり忘れてはいけない。どこかに書いてあったら、やっぱりこれ抜けてませんかというのに気づけるみたいな、今後はどこかに入れとかなないといけないなというのを今、お話を聞いてすごく思いました。</p> <p>ありがとうございます。それに関連して言うと、泉大津の旭小学校区で3年かけてまちづくり協議会を立ち上げたっていう話をさせてもらいましたけれども、約2年は各団体の役員に集まってもらって、議論してたんです。そろそろ役員以外の方にも自由に参加してもらって、ワークショップをやった方がいいんと違うかと会長さんがおっしゃったんです。で、もう反対意見ばかり出てきました。何が出てきたかというと、これだけのメンバーが2年かけて話してもなかなか話がまとまらへんやろと、そこにまた新しい人が入ってくると、かき回されるだけかき回されて、話が進めへんようになるだけちゃうかっていうことで反対意見がたくさん出たんですが、もう業を煮やして会長が、お前らの意見はわかったと、申し訳ないけど、俺の責任で今度ワークショップやらせてくれって言って、啖呵を切ったんですよ。それで、ワークショップをしました。いろいろ声をかけてたくさんの方に入っていたんですけども、それが終わった後、反対されていた方々のお声のがらっと変わったんです。地域の中にこんな人がいて、こんなことやっているっていうのが全く見えへんかったって話だったんです。これは良かったっていう話になって、そこからはいろんな方々に関わっていただきながら、約1年間、どういう形でまちづくり協議会を立ち上げていったらいいのかっていう話になったんです。だから、そういう準備期間の中で様々な方々のご意見を賜りながら、この地域協議会もそういう形で立ち上がるんです。</p> <p>そういう一つの典型的な事例ですので、あとはこのあたりは、協議会をどうやって立ち上げたらいいかっていうところの企画検討委員会みたいなところで、今日のご意見を重要視しながら、こういう観点をどのような形で地域協議会の中で取り入れられるか、組み込んでいくみたいなことが重要なというふうに思いま</p>
------------	--

G 委員	<p>した。</p> <p>皆さんのご意見をお聞きしていると、よく現状から先のことをおっしゃるのですが、現状を支えているのは過去です。摂津市は市制 60 年ですけれども、60 年前は三島郡三島町という名称で、その構成要素は、鳥飼地区、味生地区、味舌地区、三宅地区でした。今、三宅地区は千里丘として茨木市のほうに少し移っていますが、そのような村社会があり、ほとんどが田んぼでした。ところが、市となって、田んぼが宅地となり、また、新幹線の鳥飼基地ができた影響で、周辺に住宅や工場、倉庫などができて現在に至っています。</p> <p>ですから、旧の村社会の人たちと移住された方で構成されたのが、摂津市ということです。摂津市の現在の人口は約 86,000 人ですが、この近隣でいうと、池田市や交野市で、もう少し離れたところだと、高石市が摂津市とよく似ています。池田市には山がありますが、摂津市には山がないです。ここの棚卸しをしなければ、コミュニティといわれても、新しい人の意見と、先ほどお話があった以南以北のことにしても、なかなかコミュニティのスペースはできないと思います。</p> <p>事務局には、千里丘地区の小中学生の出入りは年間どれくらいになるのか調べていただきたいです。なぜかという、摂津市で学力が高いとは言われていないんです。子どもの学力がないところにしっかりとしたコミュニティはできない、もしくはできにくいと言われてきているのは事実だと思います。ですから、今、千里丘に人口が摂津市の中でも集中しています。小学校であったり、中学校であったり、ここの出入りというのは、学力が上がれば上がるほど学力の高い人は出ていき、低い人も高いところに入ろうとして出入りしますから、その辺の出入りの人口を見ていただきたいと思います。</p> <p>それから、今、摂津市の老人の数は、22,000 人から 23,000 人で、人口の約 26% を占めています。65 歳から 100 歳は、コミュニティをつくる上で大きなキーになる層です。元気な人は 80、85 歳くらいまでは元気で頑張っていて、この辺の層を動かさないといけないのですが、自治会も先ほどおっしゃっていましたように、どれだけの人材がいるか分からないというようなことがありますので、元気な人と福祉を受けている人との人数割りを調べていただきたいです。</p> <p>それから、子どものいないところに大きなコミュニティはできません。幼児、青少年が、摂津市にどれくらいいるのか把握できていませんので、その辺を見ていただきたいです。そのようなことが、我々が協働のコミュニティの中で何ができるか、必然的に出てくるのではないかと思います。ですので、データを出していただきたいと思います。</p> <p>最後に、今は国もそうですけれども、行政が来年度の予算をやっておられます。この委員会に予算化できるのは、日当と交通費ぐらいですかね。でも、何かしたいとなった時には、どういう要領で予算化してもらって、我々の意見が通るのかが分からないので、一度検討していただきたいです。例えば、有償ボランティアもあるでしょうし、先ほど言われたように、一般法人であれば、無償では何もで</p>
------	---

	<p>きないという意見もありました。ですから、その辺のお金の調達については、我々も小耳に挟んでおかないと意見を言えませんので、ぜひその辺をお願いしたいと思います。</p> <p>それと、もう一つだけ、自治連合会長からもありましたけど、お祭りは、コミュニティの大きな原動力になると思います。今、私の頭の中にあるのは、8月にある摂津まつりです。このほかに、これぐらいの規模もしくは準ずるようなものというのは、どれだけあって、これに対して、棚卸しや反省会がされているのかどうかというのも教えていただきたいです。摂津まつりの来場者数はどれくらいですか。</p>
事務局	1日約20,000人です。2日間ありますので約4万人です。
G委員	では、摂津市の人口の半分近くが来場されるということでしょうか。
事務局	市外からも多くの人が来場されます。
G委員	<p>というように、お祭りはコミュニティの中の大きな要素ですので、他の行事についてもどれくらい集まるのか教えていただけたら、我々の次の発想に生かせると思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。私事にまたなりますけれども、私、千里丘小学校出身なので、学力が良いところに行く、行かないというのは、個人的にはあまり関係ないだろうなと。自分がその小学校で頑張ったら、ちゃんと学力はついてくと思うのですが、今、世の中として学力の良い子どもたちが集まったところに入ると、なんか自分の子どもも学力が上がるように思っちゃって引っ越すんですけど、それは個人の問題もあるやろなというのが、私の個人的な見解でもあるんです。そこらへん、傾向はそうだとするとそのあたりをどう変えていけるかというところもかなりいるのかなと思います。</p> <p>今、千里丘小学校出身は三中ですけれども、私の頃は三中がなかったので、一中だったんですけど、一中、私の時は荒れていました。そこでも頑張って勉強はできたので、そういう意味では頑張る子どもが頑張れば、どんな環境でもしっかりと身につくものは身につくのかなと思うので、そこらへんのPRをどうしていくのかということも重要なことと思って今のお話を聞かせていただきました。</p> <p>新旧のコミュニティの問題は、私もいろんな地域に入らせてもらってだんだん整理がついてきたんですが、旧のコミュニティが中心のところというのは町会活動と村の活動が混然一体となっているので、そのあたりが整理できると新の人も入りやすくなるのかなと思います。旧の村を維持するための活動、例えば、墓の管理の問題であったり、神社のお布施の問題であったり、旧村を維持するために、たくさんの活動を今でもやってらっしゃるわけです。そこは新の方にはご縁</p>

B 委員	<p>がないところなので、自治会活動と村を守っていく活動を少し整理をしていただくことによって、新の方も入りやすい地域コミュニティができるのかなと思いますので、そこは、旧の人にはいつもお願いしているのですが、自治会でいろいろやっていくということではなくて、組織を切り分けながら、活動も切り分けながらやっていただくことで、新の方も入りやすいコミュニティができるのではないかなと理解しています。そのあたりも地域活動のあり方を検討する中では、きちんと整理をしていく必要があるのかなと思います。</p> <p>何回も発言して、すみません。</p> <p>PTA を現状やっている中で、今、村的な話が出たんですけれども、今までの小学校区の自治会単位での実際リアルな話として、村的組織構成の中で PTA みたいな、下働きの強制的な雰囲気の中でいろいろ言われたことをそこまでアクティブな気持ちがないまま、やらなければいけないというのが、結局、PTA 活動というのは本来、村活動とは別なものではあるんですけど、結果的にはそういう使われ方をしてきたというのが、結果的に PTA 組織に対する嫌悪感みたいなものにつながって、今、PTA も任意団体というのが皆さんに浸透してきて、入らなくてもいいやと気づいた人が、当然、祭りを手伝われるんやろうみたいな世界観で、本来そういうのが活動の主体ではないにもかかわらず、PTA もういいわみたいな感じで、結果的にかなり組織力が弱まっているところが現実としてあるんです。その活動が良い悪いはさておいて、現実としてそういうのがある中で、やっぱり今から新しい形でいろんな人を取り込んで、そういうのをやっていくという方向でこの話を進めていこうとするなら、できれば村的なものとは違うんだよ、みたいなのがわかりやすい形で出た方が若い世代としては入っていきやすいのかなっていうのを今の話を聞いていて思いました。大事なことは大事なことで、そういうこととは違うんだよという方向性の方が私ら世代では良いのかなって。</p> <p>もう一点、学力の話でいくと、どういう観点で住むところを選ぶか、いろいろ動いていく人が、転勤先が決まりました、どこに住むんですかっていうときに、その学区どうなんっていうのは、どうしても私たちは見るんですけども、そういうときにやっぱりそういう安定した感じの、学力うんぬんというのはあれなんですけど、やっぱり地域コミュニティが、精神的治安が良いって言うんですかね、安心していい感じで、そこがなんというか精神的にも本当の意味での治安的にも安定しているっていうのは、やっぱり子どもをそこで子育てしたいっていうのが要素になるので、もし、この強い地域協議会みたいなものが作れたとしたら、そこはすごく人を呼ぶ原動力になるんやろうなっていうのを強く思いました。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。先ほど前半部分の話で、これも理想的な話なんですけど、昔、大阪市の平野区で講演させてもらって、ちょうど2月ぐらいで、その後ワークショップをやらせてもらったときに、PTAの方が何人も来られていて、次</p>

H委員	<p>の役員決まってるって話になったんですよ。決まっているっていうところと決ま っていないっていうところがあったんですが、その中で、先ほどB委員のお話 で、面白いと言ったら怒られるかもしれませんが、PTA の役だけで収まってい るところは PTA 役員がずっと決まってるんですよ。PTA になるといわゆる充て職 でいろんな地域の活動がついてくるっていうところは、役員なかなか手が挙がら ない。見事にそれが分かれていましたんでね。おっしゃるとおり、PTA は子ども たちのために活動するってのが本来なので、何か違う団体の下働きっていう ところは、やっぱり一線を引いておかないと、役員のなり手もないんだろうな というのは私も思います。そういう意味では、いろんな団体が、いろんな行事の 時に下働きで、充て職で決まっているっていうところもたくさんあるので、そこ らへんの整理も、やっぱり一歩ずつ取り入れながらやっていく必要があるんじや ないかと思います。</p> <p>コミュニティの話が出ていますけれども、私は NPO 活動をさせていただいてい ます。そして、もちろん市民活動もやらせていただいていますけれども、ちょっと 感じたのは、先ほど国際交流協会の方がおっしゃったことなんですけども、やっ ぱり市民活動の中には外国人も含めてたくさん活動をされている団体もありま す。我々もそういう団体に呼ばれたときは行って、言葉も通じてないんだけど も、やはりそれなりのコミュニティはできますし、ただ、国際交流協会も歴史は 長いです。市民活動だからできる部分はやっぱりあると思うんですね。</p> <p>やはりコミュニティと言いますと、自治会とか、地域にかたまり、コミュニテ ィとか自治会とか、村型とかおっしゃいましたけど、そういう感覚の方もたくさ んいらっしゃる。そこへわざわざ入っていくのは、なかなか敷居が高いというふ うに思うんです。ただ、私たちはそんなもんなんも、なにもかも含めて市民 活動させていただいていますんで、そうすると新しい人材が発掘できると思うん です。若い皆さん方の声を聴かせてもらって、見たことないしゃべったことな い人と一緒にしゃべって、こういう考え方があるんだって、今回 11 月に、二中 か四中で、初めて出させていただきましたけれども、中学校の子どもたちが 3 分 しかしゃべれないんですけども、ずっとぐるぐるしゃべってくるのを、我々の年 齢で何を答えたらいいいのかわからないけれども、なんとなしに雰囲気的に何でも しゃべります。そういう場面に出ていくのも地域のコミュニティやと思う。そし て、今の中学生がこういうことを考えているんだ、その中間に入られたのが、ど こかの市の NPO の方が中間に入られて、それでああすごいねと私は感じました。 やっぱり中学生に飛び込んでいくというのは、うちでも敷居は高いけれども、や っぱりそこへ入っていくべきだと思うんですね。</p> <p>そして、新しいコミュニティ、以北と以南の問題がありますけれども、「わい わいガヤガヤ」も私 1 回目から入りましたけれども、もう何年も経って、あれだ けのものができたわけです。やっぱり踏み込まないとできないと、そういうふう に思います。それと、昔からある組織からちょっと離れて、市民活動をやること</p>
-----	--

	<p>によって、今たくさん市民活動をやってらっしゃる団体を見えていますけど、そういう人が入って旧態依然として役員さんのなり手がいないとおっしゃってましたけれども、やっぱりそこも一つの堅い組織というのが昔からのもの、そこに踏み込むというのが若い力ということです。そういうことは自分たちでやっている市民活動を生かしながら、そしてみんなと共通の目的を持ってやれる組織というか、この協議会ね。そして、業者も含めて一緒に頑張ろうよというふうなものは、ある一つの形を作らないと駄目だなと思うので、そのへんところはまたこれからの協議だと思うんですけど、何かの見た形をお願いしたいと思っております。</p> <p>ありがとうございます。次回事務局にお願いですけど、「わいわいガヤガヤ」のことをご存知の方もご存知ない方もおられるので、情報提供もやっていただくと共有できるかなというふうに思っています。せっかくいろんな人たちが集まって、自由に意見交換できる場を作ってるわけですから、そこをうまく活用してくださいっていうのが正しいかと思います。</p> <p>ちなみに、茨木市は商工会議所が2か月に一度、意見交換会をしているんですけど、先月、小学校4年生が来られたんですね。お母様と2人で来られたので、私はてっきりお母さんに連れられて小学生が来たのかなと思ってたんですが、話が始まると、小学生が来たいっていうことで来られて、お母さんが連れられてきましたっていう話なんですよ。茨木市は、商工会議所の主催ですけど、広報誌に載りますので、そこを見てその小学4年生が、私はずっとまちづくりに興味があって、いろんなことを話したいし聞きたいんやっていうことで積極的に関わっていただきましたので、自由に出入りができるところをつくっていただいてうまくPR ができると、子どもたちも関わってくれる可能性は高いですよっていうことで、ちょっとお話をさせていただきました。</p>
I 委員	<p>私たちは法人ではないんですけれども、オレンジリボンフェスタっていうものを5年ほど4市1町でさせていただいております。私たちが3年前にやった時のオレンジリボンフェスタで主催側として関わった者っていうのが、子育てを応援している者、育ちを支えている市民団体の方々、グループの方々っていうような形でフェスタをしたんですけれども、今年度、島本町で開催しまして、人口が少ないんですけれども、たまたまその主催をしてくださった方は民間の保育園の先生だったんですけども、その方が、島本町民交流プラザという、たぶん中間支援組織の団体があるかと思うんですけど、拠点は無いんですね。拠点は無いけれども、そこに声かけをしたら、今回のオレンジリボンフェスタで、そこに参加された方々が、生協だったり、ここの構成団体の例にあるPTA もそうですし、民生委員もそうですし、多いんですけど、あと病院もそうでしたし、消防署あと学校施設、本当にありとあらゆる方々が主催側から大卒のところに関わってくださったんです。中には、囲碁クラブだったりとか、動画を作る小さなサークルもあったりとかで、私が今回すごくイベントに参加して感じたのは、この地域協議会とは</p>

	<p>ちょっと違う組織にはなるかもしれないんですけども、それこそ最初、E委員が言われたように、その人たちがその地域の小さなところに新しい市民の方も最近多く入っている島本町なんですけれども、ものすごく地域に散らばっているけれども、オレンジリボンするよって言ったら、何それっていうところから、でも何かそこに関われば、自分たちの活動も紹介できる中で、オレンジリボンという趣旨も自分たちが気づけるとかっていうような視点で関わってくださったんだなってすごく思っていて、昨年やったオレンジリボンの吹田市では、福祉をされている、でも企業的なところの人たちが主となってされると、本当に企画側の人の層が全然違うって、今回の島本町は子どもから高齢者まで関わってくださって居心地の良いフェスタを開催させてもらったっていうのがあって、とりあえずこの4市1町では終わったので、来年以降はもうその組織自体は閉じて、それぞれの自治体の各団体でやっていきましょうってなったんですが、島本町はその団体を引き継いで来年もするっていうふうに、終わらない前に来年の日にちまで決めて、今動いているということを聞いて、すごく私の中でその団体の人たちの構成メンバー、どんな人たちなんだろうってことにすごく興味が湧いて、誰が中心となり、コアとなってらっしゃるのかとか、その周りが何でそこにみんなが関わろうと思ってる方がいてるのかなっていうところに注目しているところなんですけど、それが今回のこの摂津に対してもそういうふうなところで、何か自分がちょっと関わればできるかなって、自分の持っている力をちょっとそこに関わればできるかなという形が取られる協議会ができればいいかなというふうに皆さんの話を聞いて思いました。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。児童虐待防止のことなので、地域コミュニティの方が一番身近でご存知なので、そういう意味では、地域コミュニティの方々も一緒に関わっていただくということがとても重要だになっていうお話だと思いました。</p>
J委員	<p>私たちの団体は全国的な組織で、もともとの母体は、青年海外協力隊で開発途上国の支援ということでボランティアに行ってきたOBたちが作った公益社団法人なんです。JOCA大阪っていうのはもともとはJOCAの近畿支部ということで、1996年に京都に支部を置いて、2回引っ越して、2回目のところが7年前に摂津市に来たんですね。最初はJICAさんの中のボランティア部門ですから、JICAから仕事を委託されて、青年海外協力隊の普及活動ですとか、自分たちの経験をいろんな学校で話したりとか、そういうことをやったり、実際に行っている隊員の支援のコーディネーターをOBから選んで、全世界中のJICAにおいて、ボランティアの後輩たちを支援するというようなことをやっていたのが、いろんな経緯から海外で得た経験を日本の社会のために役立てないといけないんじゃないかと、まず最初にそういう動きをしたのが東日本大震災の時なんですね。</p> <p>そこで、その支部じゃない拠点という名前のものをまず東北で作り出して、今、宮城県の岩沼市というところで、うちの東北の拠点があるんですけども、JOCA東</p>



	<p>北というんですけども、そこは子どもの幼稚園・保育園からお年寄りの施設、それから障害者支援の作業所から温泉を掘って、温泉も出る、フェアトレードということで、ブータンという山の中の国におそば、土地が貧しいのでそばぐらいしかできないので、そこでおそばをつくらせて輸入してきて、そばが有名です。それは、うちの中で一番のモデルで、全ての年齢層の人、それから外国人、外国とのフェアトレードとか、そういうものの施設を1か所に置いて、そこで「ごちゃまぜ」という言葉でお年寄り、若い人、子ども、外国人関係なしにごちゃまぜにそこに来てもらったら、みんなで交流できるよっていうモデル施設なんです。</p> <p>そこが今中心になって、それに似たようなものをいろんなところで作ってまして、もう一つの拠点としては輪島ですね。輪島の施設を作ったのが五、六年前で、3年目ぐらいのときに大震災があって、幸いにも建物が新しかったので、損壊はある程度避けることができ、その施設は温泉施設も生きていましたので、水道もガスもストップしている輪島の方にうちの温泉を使ってもらったりとか、避難所の支援ということで、全国の協力隊の0Bが募集して、避難所の支援で仮設住宅は、町々から任されて全ての仮設住宅の見守りも今、うちの職員がしています。</p> <p>大阪は、最初のところがJICAの仕事を受けるということで、東北ほどの広い土地もないし、温泉を掘るようなこともできてませんし、温泉を掘れるかどうか摂津ではわからないんですけども、ただ、子どもの居場所っていうところと、近所のお年寄りが集まってもらえるカフェという2つの機能しか今JOCA大阪は持っていないんで、これをどう発展させていくのかというところで考えています。</p> <p>うちは東北のモデルを見ながら、大阪も発展させて摂津市のところも早くお役に立ちたいんですけども、「ごちゃまぜ」ということで、うちの施設を使っただいて、若い人、お年寄り、外国の方なんかにも利用していただけたらいいなというふうに思っているんですけども、ちょっと今、過渡期といいますか、中心になる職員は輪島に集中してしまっていて、私も一度、JOCAの本部にいたんですけども、親の介護のことがあって十数年前に辞めて、大阪に帰ってきて別の仕事をして、そこは定年退職して親も亡くなって、時間があるんでJOCA大阪を見てくれということで今おりますけれども、もう65歳なんで、そんなに長くJOCA大阪の仕事をするのができないんで、できるだけ早く若い職員を配置して、皆さんと一緒にまちづくりをしていきたいなというふうには思います。</p> <p>ただ、私ある程度年をくっているんで、いろんなネットワークがあるんで、例えば今、摂津警察署に協議会のOGがおります。あと、摂津小学校にも協力隊の経験者の先生がいて、ただ1人1人でポツンポツンとしかいないので、あまり力を発揮できないんですけども、そこを集中させれば、また摂津市の皆さんのお役に立てるようなことが何かできるかもしれないので、何かありましたらお声かけください。</p> <p>あと、近畿の中には、医療通訳会というのがあって、いろんな特殊言語の医療通訳できる人たちがいて、病院なんかで言葉が通じないというのであれば、派遣して治療のお手伝いとか、そういうこともしている仲間が西宮にいますし、</p>
--	---

委員長	<p>大阪に近いので何かあったら呼んだら来てくれることもありますので、そういうネットワークがありますので、また活用していただけたらいいなというふうに思っております。</p> <p>ありがとうございます。このように JOCA も含め、いろんな人材、それから資源がある。それをみんなで情報共有しながらうまく使っていただけたらいいのではというご意見かと思いますので、そういう情報共有の使い方も考えていくといいなと思いました。</p> <p>まだまだご意見があろうかと思いますが、次回も今回の延長上でいろいろディスカッションさせていただきたいと思いますので、今日ちょっとしゃべりたかったけどという方は、次回に持ち越していただいて、お話いただければと思います。</p>
3. 協働のまちづくり推進月間の取組内容について	
委員長	次第3の「協働のまちづくり推進月間の取組内容について」、事務局から説明をお願いします。
事務局	(資料6に沿って説明)
委員長	<p>先ほどご説明の中にもありましたけれども、前回いくつかご意見賜りましたので、それを参考に組み直したということですが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>では、この内容で進めさせていただきます。</p>
4. その他	
委員長	では最後、その他、事務局の方からよろしくお願いします。
事務局	<p>事務連絡、一点でございます。</p> <p>次回の会議は、「1月20日(火曜日)午前10時から、市役所本館2階201会議室」で予定しておりますので、ご予約おきくださいますようお願いいたします。開催通知につきましては、後日送付させていただきます。</p>
委員長	それでは、これをもちまして、摂津市協働のまちづくり推進委員会の第3回会議を閉会させていただきます。ありがとうございます。